

公益財団法人国際文化フォーラム

# 2014(平成 26)年度 事業報告及び附属明細書



2014年度は当初計画していた事業を概ね順調に実施することができましたが、広報に関連する事業で一部変更いたしました。

2012年より行ってきました「りんご記念日寄付キャンペーン」で、新たに広報ツールとして、「りんご記念日カレンダー」を制作し、毎年作成している年賀状に代えて、広くTJF関係者に配付しました。この2年間、TJFはめざすものを発信し、共感してもらうことで、支援者の獲得につなげるよう努めてきました。その効果は少しずつではありますが、実を結び始めていると感じています。

以下、主要事業について、2014年度に新しく取り組んだことを中心に報告いたします。2014年度実施事業一覧および各事業の報告は6～9ページに掲載しています。

#### ◆上海でグローバル人材育成と多言語教育のシンポジウムを開催

(P.7/公1-1 中国における日本語教育の促進)

TJFは、中国教育学会外国語教学専門委員会、独立行政法人国際交流基金北京日本文化センターと共催で、「グローバル人材の育成と多様な外国語教育」と題したシンポジウムを4月に上海で開催しました。

アメリカ、中国、日本から日本語や中国語教育の専門家を招いて行ったシンポジウムでは、外国語教育の意義と使命を考察し、グローバル人材を育てる第二外国語としての日本語教育の可能性について議論しました。シンポジウムには、約120名が参加しました。

「啓発的なシンポジウムだった。新しい情報など役に立つものをたくさん得ることができた」「これまで教育理論の理解と研究が足りなかったが、今日は専門家に講演してもらい、グローバル人材育成の重要性を認識した」な

ど前向きなコメントが多く寄せられ、地道に啓発活動を続けていくことの必要性を再認識しました。基調講演や発表、シンポジウムへの反響などをまとめた報告書を、参加されなかった外国語教育関係のリーダーに送付するとともに、PDFでTJFと国際交流基金のサイトに掲載しました。

翌日は、日本語教師を対象としたワークショップを行い、60名以上の参加を得て、TJFと国際交流基金が作成した日本語教材の活用方法を共有しました。

#### ◆リアルな日本文化を伝える

(p.7/公1-2 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の制作・運営)

日本の文化について発信している「くりっくにっぽん」ですが、2014年度はウェブサイト上ではありながら、本物感を高めてもらうことにチャレンジしました。その一つがメインコンテンツとして動画を掲載することでした。

また2013年度に続いて、オーストラリアと韓国で日本語教師向けワークショップを実施しました。釜山で実施したワークショップでは、「生教材・ウェブリソース」を切り口に、日本語の授業での効果的活用方法について考える講義を日本語教育専門家をお願いしました。参加者は、ウェブリソースである「くりっくにっぽん」を具体的にどのように使うかについてグループで考えました。

#### ◆さまざまな外国語教育で活用されるめやす

(p.8/公2-1 『外国語学習のめやす』講演・研修とマスターティーチャー養成研修の実施)

昨年度に続き8つの外国語教員(英、韓、西、中、独、日、仏、露)18名を

対象に、夏と冬の2回、合宿形式の研修を実施しました。『外国語学習のめやす』の視点に立って、これまでの各自の実践活動のふりかえったほか、「めやす」を取り入れた授業プランづくりを協働で行いました。

冬の研修では、それぞれの現場での実践例を本研修の成果として報告してもらいました。作成された授業プランは順次「めやすウェブ」で公開しています。2013年度の第1回研修参加者分も含めて、現時点ですでに8言語あわせて計60本を超えるプランが掲載されています。

また、「めやす」について、より多くの人に理解してもらうために、マスター研修参修了者が講師を務める研修を、2014年度から始めました。4月はドイツ語とロシア語のマスターの、11月は、フランス語とドイツ語のマスターがコラボして実施し、計22名の参加者を得ました。

#### ◆日韓の中高校生ダンス交流、韓国も全国公募へ

(p.9／公3-1 中高校生の交流プログラムの実施)

2014年度は、韓国日本語教育研究会の協力を得て、韓国側参加者の募集をソウルと京畿道限定から全国に拡げました。その結果、応募総数は前年比約40%増となり、釜山、仁川、慶尚北道、忠清北道、忠清南道からも応募がありました。

今回の発表会では、ダンスの披露とともに、「かわいい！ 귀요미 (キヨミ) 対決」を行いました。ダンスとも部屋とも異なるメンバーで構成されたチームごとに、決められたテーマ色の入った品物をコーディネートして買い集め、発表会でチーム代表が披露してかわいらしさを競い合いました。コーディネートの相談で発生するコミュニケーションで、交流のよいきっかけが生まれたと考えています。

ダンス対決では新たに、インターネットの動画配信サービスを利用して発表の様子を生中継し、会場に来られない参加者の家族や友人、先生に加え、選考に漏れてしまった生徒の皆さんの投票も加えて、優勝チームを決定しました。参加定員のあるプログラムだけに、希望者全員が何らかのかたちでかかわる形を今後も模索していきたいと思っています。

発表会当日は、複数の日韓メディアから取材が入り、NHKBSのニュースや朝鮮日報の元旦特集のトップとして報道されました。

#### ◆ことばと体を使う日中高校生交流

(p.9／公3-1 中高校生の交流プログラムの実施)

11月に、中国で日本語を学ぶ高校生18名を日本に招き、日本で中国語を学ぶ高校生18名との合宿型交流を実施しました。中国の高校生は、中国で日本語教育を実施している学校のネットワーク「中国中等日本語課程設置工作研究会」のメンバー校から、日本の高校生は全国から公募しました。

中国の高校生は、国立オリンピック記念青少年総合センターを拠点に、2泊3日の日程で交流活動(りんごの合宿)を行いました。

紙芝居をつくって、日本の高校生は中国語、中国の高校生は日本語で自己紹介したり、グループごとに話し合って自分たちが表現したいものを決め、身体を使って一枚の写真をつくって発表するなどの活動をするほか、浅草や原宿の散策を楽しみました。限られた時間でしたが、それぞれが学んでいることばをたくさん使ってみる機会となり、これからもっと中国語や日本語を学びたいという動機が高まったようです。

### ◆日中の校長が互いのことばの教育を考える

(p.9／公 3-2 隣語教育に取り組む日中の高等学校校長交流プログラムの実施)

「りんごの合宿」と並行して、中国中等日本語課程設置校工作研究会の会員校の校長、副校長等 18 名を 6 日間日本に招聘しました。前半は、中国語教育に取り組む横浜市立みなと総合学校を訪問し、教師や生徒との交流を行うほか、日帰りで箱根に行き日本の自然にも触れてもらいました。

また、中国語教育を実施する日本の高校の管理職、大学の中国語教育関係者、日中交流団体関係者に参加をよびかけた「りんごの交流会」には、日本側から 18 名の参加者を得ることができました。日本側 2 校、中国側 1 校が、それぞれ、中国語や日本語教育の実践を報告した後、グループにわかれて、「友好校」「修学・研修旅行」「留学」「教育交流団体との連携」をテーマに、それぞれが抱える問題点、改善策、実践に対する希望などを意見交換をしてもらいました。

「今回の交流会で日中双方の参加者は交流を望んでいることが明らかとなった。課題もあるが協力しながら一歩ずつできることから始めていくこと、今後その対話の場を作っていこう」と訪日団の副団長・李鉄成校長が話しました。交流会に参加していた、横浜市立みなと総合高校の校長、上海工商外国語学校の副校長が、姉妹校締結について協議し、2015 年 3 月に正式に協定を結んだことは、本事業の大きな成果の一つでした。

### ◆複数のメディアを通じた共感のひろがり

(p.9／公 4-1 TJF の事業の広報)

TJF の事業をわかりやすく伝えることをめざして、事業報告のスタイルを大きく変え、ビジュアルに訴える『CORECA』を 5000 部発行しました。

また TJF 創立記念日の 6 月 22 日を期して、メールマガジン「わやわや」を月 2 回のペースで発信し始めました。事業に関する単なる告知にとどめず、「りんご記念日キャンペーン応援団」になっていただいた方々から寄せられたメッセージの紹介や、事業で出会った人たちの、固定観念や既成概念を打ち破るような活動、体験などを紹介する「んじゃめな」のコーナーで TJF らしさを打ち出していきます。現在、読者は 2600 名に達しています。

さまざまな国のことばや文化について楽しく接するイベント「りんごをかじろう」も継続実施し、これまで TJF の活動を知らなかった方々、残念ながら「であい、つながっていなかった」方々にも、積極的に発信していくため、知的関心にうったえる、わかりやすい、を心がけた共感のひろがりを目指しました。

## 2014 年度実施事業の一覧及び各事業の報告

### 公 1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

1. 中国における日本語教育の促進（定期事業）
2. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の制作・運営（定期事業）
3. 日本語教育・日本理解事業に関するネットワーク活動（定期事業）

### 公 2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

1. 『外国語学習のめやす』講演・研修とマスターティーチャー養成研修の実施（定期事業）
2. 隣語講座の開催（定期事業）
3. 外国語教育・多文化理解事業に関するネットワーク活動（定期事業）

### 公 3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業

1. 中高校生の交流プログラムの実施（定期事業）
2. 隣語教育に取り組む日中の高等学校校長交流プログラムの実施（定期事業）
3. 交流事業に関するネットワーク活動（定期事業）

### 公 4 TJF の広報活動

1. TJF の事業の広報（定期事業）

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
<b>公1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業</b>				27,652,902円 (内、公1共通費用*14,824,940円)
<p>1 中国における日本語教育の促進(定期事業)</p> <p><b>決算額:5,851,842円 (予算額:6,846,940円)</b></p> <p>減少理由:シンポジウムの国際交流基金負担分の増加、TJF負担分のワークショップ会場費、バス代の減少</p>	<p>①4月</p> <p>②1)9月、2)11月</p> <p>③通年</p> <p>④通年</p>	<p>①上海市</p> <p>②西安市、大連市</p> <p>③中国各地</p> <p>④中国各地</p>	<p>①シンポジウム「グローバル人材の育成と多様な外国語教育-日本語教育から可能性を探る-」の開催 アメリカ、中国、日本から日本語や中国語教育の専門家を招き、外国語教育の意義と使命を考察し、グローバル人材を育てる第二外国語としての日本語教育の可能性について考えるシンポジウムを開催した。あわせて、第二外国語用日本語教材『好朋友』(外語教学与研究社)および『エリンが挑戦!にほんごできません。艾琳学日語』(人民教育出版社)活用のためのワークショップを実施した。シンポジウムには、外国語教育に力を入れている小中高校の校長、外国語教育担当責任者、日本語教師、主催機関関係者など約120名が、ワークショップには日本語教師約60名が参加した。シンポジウムの報告書を250部作成し、シンポジウムに参加できなかった外国語教育関係のリーダーに配付した。</p> <p>②ワークショップの開催 1) 中国中高校日本語教師研修会 中国と日本の日本語教育専門家に講師を依頼し、西安外国語大学附属西安外国語学校を会場にプロジェクト型学習とパフォーマンス評価についてのレクチャーと実習を中国の日本語実施校のネットワークである、中等日本語課程設置校工作研究会と共催した。会員校の日本語教員約40名が参加した。現地在住の日本人11名にもインタビュー活動を中心としたプロジェクト型学習の実習に協力してもらった。 2) 大連日本語教師向けワークショップー日本文化を取り入れた活動を考えるー 日本から日本語教育専門家を講師として招き、大連市の中高校の日本語教師25名が参加して、日本文化の実物教材(レリア)としての「くりっくにっぽん」の活用法について参加者とともに考えた。そのほか、自分の授業に取り入れてもらえる活動として、キャラクターおにぎりづくりに取り組んだ。</p> <p>③教材作成・寄贈 1) 『好朋友』教師用指導書 2013年度に第1巻用の指導書を作成したのに続き、第2-5巻用の指導書等の参考資料を掲載した『好朋友教学指南』を300部作成、寄贈した。 2) ひらがな・カタカナ連想法カード 『好朋友』第1巻、第2巻の巻末に収録されている、連想法の文字をカードとして各120セット作成し、『好朋友』を使った授業を担当している教師を中心に寄贈した。</p> <p>④図書寄贈 公益財団法人日本科学協会に協力して、中国で日本語専門コースを持つ40以上の大学に、講談社発行の日本語書籍など1万冊以上を寄贈した。</p>	<p>① 共催: 中国教育学会外国語教学專業委員会、国際交流基金北京日本文化センター 助成: (一社)尚友倶楽部、(公財)三菱UFJ国際財団 後援: 在上海日本国総領事館 協力: 上海甘泉外国語中学</p> <p>②-1) 共催: 中等日本語課程設置校工作研究会 助成: (公財)三菱UFJ国際財団 ②-2) 主催: 大連教育学院、TJF 助成: (公財)三菱UFJ国際財団</p> <p>③-1) 助成: (公財)三菱UFJ国際財団 ③-2) 助成: (一社)尚友倶楽部</p>
<p>2 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の制作・運営(定期事業)</p> <p><b>決算額:5,504,782円 (予算額:7,510,250円)</b></p> <p>減少理由:予定していた記事の一部の翻訳が2015年度になったため</p>	<p>通年</p>	<p>TJFサイト、 豪州、韓国</p>	<p>高校生や大学生が年中行事等を紹介する「365分の1」コーナーに新たに4人のレポーターを加え、コンテンツの拡充をはかったほか、いま日本で話題になっていることに関わる人びとへのインタビュー記事を掲載する「My Way Your Way」コーナーに記事だけでなく動画も掲載した。 また、広報をおもな目的に、日本語教育専門家に講師を依頼して、該当地域でのカリキュラムにどのようにくりっくにっぽんが位置づけられるかを講義してもらった後、くりっくにっぽんの活用方法を考えるワークショップを豪州で4回、韓国で4回実施した。それぞれに中高校の日本語教師が約80名、計160名が参加した。また、豪州西オーストラリア州のカソリック系学校の教師会CEOWA、同州パースモダン高校が主催する研究会で、生徒への体験授業を行ったり、くりっくにっぽんの活用例について紹介したりした。今年度のワークショップは当該地域の教育省や教師会、国際交流基金と連携しての開催となった。 さらに、韓国ではJTA(韓国日本語教師ネットワーク)のメンバー6人からなる「くりっくにっぽん活用例作成プロジェクト」を開始した。</p>	<p>ワークショップ 共催: 国際交流基金ソウル日本文化センター 助成: (一社)尚友倶楽部 協力: 国際交流基金シドニー日本文化センター、豪州ニューサウスウェールズ州教育省、ソウル日本語教育研究会、忠清北道日本語教育研究会、ヴィクトリア州日本語教師会</p>

3	日本語教育・日本理解事業に関するネットワーク活動(定期事業)  決算額:1,471,338円(予算額:2,011,640円)	通年	日本国内各地	日本語教育学会春季大会(東京)、日本語教育国際研究大会(オーストラリア)をはじめ、日本語教育関連の大会・研究会・会合に参加し、関係者との情報交換やネットワークづくりを行った。	
公2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業					27,154,000円 (内、公2共通費用* 19,704,720円)
1	『外国語学習のめやす』講演・研修とマスターティーチャー養成研修の実施(定期事業)  決算額:5,598,437円(予算額:10,614,012円)  減少理由:①の講師の米国からの招聘が3回から1回になったこと、オンライン研修の準備を実施しなかったため。②に関連したウェブサイトの改訂が2015年度になったため。	①10月  ②8月、12月	①大阪、沖縄、北海道  ②兵庫	①「21世紀型の外国語教育の推進」を目的とした教師研修 『外国語学習のめやす』の監修者である富作靖彦カリフォルニア大学サンディエゴ校教授に講師を依頼し、沖縄、北海道、大阪で小学校～大学の教員を対象に研修を行った。各地の状況やニーズに合わせて、急速なグローバル化や情報化による社会構造の変化が教育にどのような影響をもたらしているか、これからの時代の教育の目標や実践活動、評価はどうあるべきかについてのレクチャーと、そのような社会背景をふまえた評価活動について考え、各参加者のクラス活動の目標にあった評価づくりに取り組むワークショップを、単独あるいは組みあわせて実施し、外国語だけでなく国語・社会科の教員など計150名以上が参加した。また、今後の研修事業の展開を見すえ、各地域の教育委員会や教育関係者とのネットワークづくりを積極的に行った。  ②「外国語学習のめやすマスターティーチャー」養成研修 山崎直樹関西大学教授に講師を依頼し、高校・大学の8つの外国語教員(英、韓、西、中、独、日、仏、露)18名を対象に、夏と冬の2回、合宿形式の研修を実施した。『外国語学習のめやす』の趣旨をふまえた上でこれまでの各自の実践活動のふりかえりを行ったほか、「めやす」を取り入れた授業プランづくりを参加者協働で行った。冬の研修では、それぞれの現場で実践した報告をしてもらったほか、授業プランをウェブサイトで順次公開した。2013年度の研修生に講師をお願いしたウォーミングアップ研修(独露対象、仏独対象)も実施し、計22名が参加した。	① 共催:沖縄県教育委員会、国際教育活動ネットワークREX-NET、実用英語教育学会(SPELT) 協力:高等学校中国語教育研究会北海道支部
2	隣語講座の開催(定期事業)  決算額:171,795円(予算額:352,950円)  減少理由:講師との打ち合わせ回数が予定より少なかったため。	通年	東京、神奈川、千葉ほか	千葉県高等学校教育研究会中国語部会と、自己紹介など基本的なコミュニケーション表現について学ぶ全10回にわたる中国語講座を共催し、千葉県内の高校生7名が参加した。  8月には高校生のための韓国語講座「K-POPを歌えるようになろう」を3日間にわたって主催した。最終日に新大久保のカラオケで韓国語の歌を歌うというゴールに向けて韓国語を学んだ本講座には、4名の高校生が参加した。また、駐日韓国大使館韓国文化院、韓国文化院世宗学堂と「中高生のための韓国語講座2014」を共催するほか、拓殖大学第一高等学校韓国語講座への協力も行った。	・中国語講座 共催:千葉県高等学校教育研究会中国語部会 助成:漢語橋基金 協力:千葉県立幕張総合高等学校  ・韓国語講座 共催:駐日韓国文化院世宗学堂、駐日韓国大使館韓国文化院
3	外国語教育・多文化理解事業に関するネットワーク活動(定期事業)  決算額:1,679,048円(予算額:2,434,676円)	通年	日本国内各地	高等学校中国語教育研究会全国大会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)、朝鮮語教育学会、一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)など、国内の中国語や韓国語をはじめとする外国語教育関連の研究会や会合等に参加し、情報収集やネットワークづくりを行った。 また、日中友好協会主催の「全日本中国語スピーチコンテスト」に国際文化フォーラム賞と副賞を贈呈したほか、工学院大学孔子学院や神戸東洋医療学院孔子課堂主催の「漢語橋世界中生中国語コンテスト」の予選大会や高等学校中国語教育研究会主催の全国大会や各支部の学習発表会、韓日交流エッセイ・フォトコンテスト等に対して後援、協力を行った。	

公3 国内外の中小高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業					35,519,078円 (内、公3共通費用* 21,391,206 円)
1	<p>中高校生の交流プログラムの実施(定期事業)</p> <p>決算額: 8,182,526円 (予算額: 8,710,580円)</p>	<p>①12月</p> <p>②11月</p>	<p>①韓国ソウル市ほか</p> <p>②東京、神奈川</p>	<p>①日韓の中高生交流プログラム2014「SEOULでダンス・ダンス・ダンス」韓国語を学ぶ日本の中高生16名と日本語を学ぶ韓国の中高生16名を公募し、ソウルでK-POPダンスをテーマにした交流を行った。日韓の中高校生は、5日間合宿生活をしながら、チームに分かれてダンスの練習に取り組み、最後に発表会で成果を披露した。発表会には韓国の生徒の家族や友人など100名がゲストとして来場しダンスの審査に加わった。また、初めての試みとして、発表の様子を日本の参加生徒の家族や友人向けにインターネットを通じて同時中継し、インターネット投票にも参加してもらった。</p> <p>②互いのことばを学ぶ日中高校生交流プログラム「りんごの合宿」日本語教育を実施している中国の中高校のネットワークである、中等日本語課程設置校工作研究会の会員校の生徒18名を日本に招聘し、日本で中国語を学ぶ高校生のなかから公募で選ばれた18名と2泊3日の合宿形式で交流活動を行った。交流活動では、自分を紹介する紙芝居をつくって互いに自己紹介をしあったり、チームで身体とことばを使ったアクティビティに取り組んだほか、浅草と原宿見学に出かけた。中国の高校生は、合宿交流以外に、横浜の高校での学校生活体験や箱根観光などの活動を行った。</p>	<p>① 共催:財団法人秀林文化財団 助成:(公財)双日国際交流財団、(公財)日韓文化交流基金 後援:秀林外語専門学校 協力:高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、韓国日本語教育研究会、国際交流基金ソウル日本文化センター 輸送協力:ANA</p> <p>② 共催:中等日本語課程設置校工作研究会 助成:(公財)三菱UFJ国際財団 輸送協力:ANA</p>
2	<p>隣語教育に取り組む日中の高等学校校長交流プログラムの実施(定期事業)</p> <p>決算額: 4,111,422円 (予算額: 6,371,200円)</p> <p>減少理由: 招聘人数が当初より少なくなったため。</p>	11月	東京、神奈川	<p>中国中等日本語課程設置校工作研究会の会員校の管理職等18名を6日間日本に招聘し、日本の学校現場を視察したほか、中国語教育を実施する日本の高校の管理職、大学の中国語教育関係者、日中交流団体関係者との交流会を実施した。交流会では、それぞれの学校で実施している交流プログラムなどの現状と課題、今後の展望などについて活発な意見交換が行われた。</p>	<p>共催:中等日本語課程設置校工作研究会 助成:(公財)三菱UFJ国際財団、(公財)東華教育文化交流財団 輸送協力:ANA</p>
3	<p>交流事業に関するネットワーク活動(定期事業)</p> <p>決算額: 1,833,924円 (予算額: 2,354,800円)</p>	通年	東京、沖縄ほか	<p>聖心インターナショナルスクールの細井洋実教諭の協力を得てプロジェクト型学習を取り入れた授業を継続的に観察しながら学ぶ研究会を実施したほか、アクティブ・ラーニング、国際理解教育、異文化間教育、情報教育等に関連する各種研究会・研修会に参加し、情報収集や情報提供のほか、関係者とのネットワークづくりを行った。また、沖縄県立向陽高等学校の中国語の授業と連動して、学校の所在地である八重瀬町を中国語圏の人たちに向けてPRするCMをつくり八重瀬町役場のホームページに掲載するプロジェクトを企画・実施した。このプロジェクトには、向陽高校で中国語を学ぶ2年生25名が参加し、TJFはCMづくりを含めた授業活動のデザインに協力したほか、実際にCMをつくる活動にはプロのCMプランナーを講師として派遣した。</p>	<p>協力:沖縄県立向陽高等学校、聖心インターナショナルスクールほか</p>
公4 TJFの広報活動					35,490,038円 (内、公4共通費用*23,171,080円)
1	<p>TJFの事業の広報(定期事業)</p> <p>決算額: 12,318,958円 (予算額: 11,244,534 円)</p> <p>増加理由: りんご記念日寄付キャンペーンに連動したカレンダーを制作したため。</p>	通年	東京ほか	<p>TJFの事業をビジュアルにうったえわかりやすく伝えることをめざして、事業報告のスタイルを刷新し、見てわかる事業報告書『CoReCa』を5000部発行した。TJF創立記念日にはメールマガジン「わやわや」の発信を開始した。現在、約2600人の読者に向けて、月2回、事業に関する告知や募集、事業で出会った人たちの固定観念や既成概念を打ち破るような活動や体験などを紹介している。個人的な隣語との出会いのエピソードとともにTJFの事業に寄付をいただく「りんご記念日キャンペーン」、また著名な方がたからメッセージと寄付をいただく「りんご記念日キャンペーン応援団」も昨年度に引き続いて実施した。さらに、キャンペーンに連動したカレンダーを制作して支援者の方々に届けた。さまざまな国のことばや文化について楽しく学ぶイベント「りんごをかじろう」も継続実施し、日中の水墨画の違い、ブラジルの多様な暮らし、ブータンの山旅などをテーマにとりあげた。</p>	<p>【りんごをかじろう】 助成: 漢語橋基金(水墨画) 後援: 文京区(水墨画) 協力: ワンダーアイズプロジェクト(ブラジル)、日中学院(水墨画)、カワカブ会(ブータン)</p>

\*各公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品、賃貸料など)